

第3回石西礁湖自然再生協議会（平成18年度） 議事概要

日 時：平成18年11月17日（金） 13:30～16:15

場 所：石垣市民会館中ホール

参加者：委 員：38名

（内訳）個人15、団体・法人9、地方公共団体10、国4

傍聴者：10名

報道関係：5社

議 事：

（1）石西礁湖自然再生全体構想（案）について

概 要：

石西礁湖自然再生全体構想(案)について、各章ごとに運営事務局が説明を行い協議を行った。

（1）第1章 石西礁湖自然再生の取り組みに至る背景と経緯について

運営事務局より、第1章について説明が行われた。その結果、データ及び表現方法の確認・修正要望等があり、事務局内で確認・修正することとなった。

< データの確認・修正 >

- ・ (p29) 船舶乗降員の推移データ
- ・ (p23、26) 平均水温が31度越えることはない。データを確認して欲しい。

< 表現方法の確認・修正 >

- ・ (p2) 八重山諸島と沖縄本島のサンゴは遺伝的に差があるという断定的な表現になっているが、原著論文は一斉産卵タイプは近く、幼生放出型は遠いという結論であったため、表現を修正して欲しい。
- ・ (p19) パイン畑面積は現在減少傾向にあるにも関わらず、増加するような文章表現となっているため、修正して欲しい。

< その他 >

- ・ 目次はさらに下位のレベルも示して欲しい。
- ・ (p12～) 統計データには波照間島が含まれていることを示して欲しい。
- ・ (p21) 土地改良事業の状況を整理して欲しい。
- ・ (p14) 土地利用については、さらに古いデータも提示して欲しい。

（2）第2章 石西礁湖自然再生の対象となる区域について

運営事務局より、第2章について説明が行われた。対象地域については、委員の了承を得た。その他、以下の意見があった。

< 表現方法の確認 >

- ・ (p39) 加屋真島と嘉弥真島という表現はどちらが正しいか確認して欲しい。

(3)第3章 石西礁湖自然再生の目標

運営事務局より、第3章について説明が行われた。目標時期や評価指標の設定等、より具体的な記載が必要との意見があった。また、本章については第4章も合せて協議することになった。

<意見>

- ・(p40)短期目標、長期目標の達成時期はいつか？また、評価の指標は何か？
(運営事務局)短期目標10年、長期目標30年で考えている。これを自然再生全体構想に含めるかは協議会の場で決定していきたい。

(4)第4章 石西礁湖自然再生の考え方

運営事務局より、第4章について説明が行われた。取り組みの実施主体が必要との意見があったが、第5章の説明後合せて協議することになった。

(休憩)

(5)第5章 石西礁湖自然再生協議会委員とその役割分担

運営事務局より、第5章について説明が行われた。自然再生の取り組み状況に係る情報提供、自然再生にあたっての提案、役割分担について意見があった。

<自然再生の取り組み状況に係る情報提供>

- ・オニヒトデの駆除活動は、沖縄県、ダイビング協会・漁協等々の地元の人々が実施している。地元の協力が重要であると同時に、こういった活動を市民にアピールすることも必要ではないか。
- ・沖縄県、石垣市では、農地系の赤土対策として土木的対策、営農的対策の実施及びその啓発活動を行っている。農家の協力が必要な状況である。
- ・(独)水産総合研究センターでは、八重山地方も含めて資源管理を行っている。
- ・沖縄県では、マングローブ等の利用にあたってのルールづくりを検討してきた。
- ・林野庁では、外来種の駆除方法やマングローブ林の生態やその成長過程の研究を行っている。
- ・WWFでは船底塗料、農薬等の化学物質汚染状況について研究している。
- ・衛生環境研究所では、除草剤の使用状況と光合成活性の影響等の知見を得ている。
- ・(独)水産総合研究センターでは、サンゴ増殖応保地選定のための生物群集及び環境要因調査を実施している。
- ・(株)不動テトラでは、構造物の形状等の工夫によるサンゴ加入促進技術や大型サンゴの移植技術を研究している。
- ・衛生環境研究所では、海域のみならず陸域も含めた生態系調査を全島で実施しており、この知見が石西礁湖でも役に立つと思う。

<自然再生にあたっての提案>

- ・サザンゲートブリッジ等の人が集まる場にサンゴを移植し、アピールするのが良いのではないかと(コーラルパーク構想)。なお、サザンゲートブリッジ付近では水温が低いため、サンゴが生き残っているようである。
- ・サンゴ加入促進の観点から着生を促進することができる。大型サンゴの移植が良いのではないかと。
- ・最近では修学旅行生も増えてきており、石西礁湖自然再生を題材とした環境教育の教材をつくるのが良いのではないかと。
- ・実効性確保のための数値目標の設定と実施主体を検討する必要があるのではないかと。
- ・オニヒトデの天敵を利用した対策を検討してみてはどうか

<役割分担の明確化に係る意見>

- ・(独)水産総合研究センター西海区水産研究所石垣支所)水産資源の管理については、「放流などによる漁業資源の添加」については、実施可能である。

(6)協議会終了にあたって

運営事務局より、年度内に再度協議会を実施することを説明し閉会となった。

以上